

小学生やりたいたいことは

子供たちの放課後の活動を支援する「放課後NPOアフタースクール」が小学生千人を対象に放課後や夏休みにやりたいことを尋ねた。アンケート結果を並石国泰代表理事に寄稿してもらった。



平岩 国泰

放課後NPOアフタースクール 代表理事

私たちは放課後の小学校を活用した「アフタースクール」を展開するNPO法人である。「安全で豊かな放課後」をつくることを願い、10年間活動してきた。放課後の過ごし方が変わっている中で、子供たちの声をもっと聞きたいと思い、2014年から、小学生千人に「放課後や夏休みにや

放課後の遊び「みんなで」

「つてみたいこと」を聞いた。

千人のうち約半数は、全国各地の学童保育等を訪問して出会った子供たち。残り私は私たちのアフタースクール参加者である。「思い切り遊びたい！」「プールに行きたい！」「本が読みたい」など子供たちの多様な声が多数寄せられた。

最も人気があるのは「サッカー」だ。男子の熱い支持に加え、女子の一部からも声があり、性別を問わず高い人気を誇る。サッカーの永遠のライバル「野球」は15位、野球ファンには少々残念な結果となった。以下、2位ドッジボール、3位鬼ごっこ、4位なわとびと続く。やはり外遊びが人気である。放課後の危険性が心配され、外遊びが思う存分できていない環境がこのような結果に表れたのかもしれない。

過ぎしにくい屋外 ■ 自主性育たず

順位	やってみたいこと	回答例や傾向
1位	サッカー	男子の圧倒的支持に加え女子も
2位	ドッジボール	永遠の定番
3位	鬼ごっこ	男女問わず人気
4位	なわとび	大縄、長縄は別途
5位	なし	ない、わからない、なんでもいい
6位	ゲーム	携帯型ゲーム
6位	工作	粘土、プラモ、ブロック、糸電話
6位	遊び	思いっきり遊びたい
9位	外遊び	逃走中・ボール遊び
10位	絵画	お絵描き、塗り絵、道に描きたい
11位	読書	図書館に行きたい
12位	遊具	ブランコ、鉄棒
13位	カードゲーム	トランプ、花札、UNO
14位	水遊び	水泳、海も別途
15位	野球	全員男子
16位	室内遊び	椅子取りゲーム、ハンカチ落とし
17位	一輪車	全員女子
17位	楽器	ピアノ、トランペット
19位	かくれんぼ	男女半々
19位	かけっこ	かけっこ、競走、リレー

最も注目したのは、5位の「なし」である。「やってみたいこと」はない、「自分の自主性や創造性、社会性が育まれてきた。自由に放課後に遊べない環境が多かった。」

放課後から、時間、空間、仲間の三間(さんま)が失われた、といわれて久しい。今の子供たちは、自分たちで放課後の過ごし方を考えることが減った。あらかじめ決められた場所で行われたことだけをやって放課後を過ごす。そんな環境が、「なし」という回答を招いたのだろう。

「今日は何をやる？」
「今日はあそびで遊ぼう！」
放課後や夏休

回答は全部で137種類と多様だったことも特徴だ。「鬼ごっこ」だけでなく、「高おに」に加え、「水おに」「増えおに」「隠れおに」などのバリエーションがある。また遊びの種類も、工作や昆虫採取、コマ遊びなど昔からのものから、「ダンス、ボウリング、カラオケなど現代的なものまで幅広い。」

6位は「ゲーム」だった。事前予想では1位か2位かと思っていたが、それだけでもなかった。既にゲームにもどっぷりつかっているからかもしれない。現代は「ゲームと塾が中心の放課後」ともいわれるが、それを望む声は少ない。塾は1票もなかった。

「今日は何をする？」
「今日はあそびで遊ぼう！」
放課後や夏休

子供たちだけでなく、多くの午後3時から5時に起きていて、親たちは「放課後は危ない」と考えている。地域の人が子供たちに関わることも少なくなかった。日本に昔からあった「地域の子育て機能」が消えつつある。その結果、子供たちは非常に限られた場所ですら人数で過ごすようになっていく。「日本の子供は各国と比較し、少人数で放課後を過ごしている」という国際調査もある。

子供たちの切なる声を招いている。そのことを真剣に受け止めたい。そして放課後は家でできないこと、一人ではできないことに積極的に取り組ませてやりたい。

子供たちだけでなく、多くの友達と、どこに行くか、何をするかを決められた。あちらこちらに遊び場があり、地域の人が見守ってくれた。今の大人は、そんな放課後を当然のように享受してきた。これは子供にとってかけがえのない財産だった。

アンケート結果を読みながら、「子供たちのための豊かな放課後を取り戻したい」と私は決意を強くした。

放課後の居場所の中心だった公園からは子供の姿が消え始めている。子供